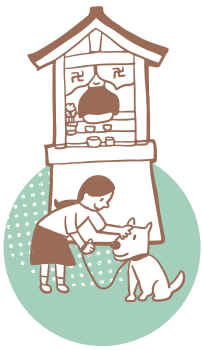
大阪市立 住まい情報センター

あんじゅ

住まいのガイドブック

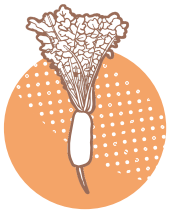


100号

2024年秋号

100号記念特集

大阪に住まう

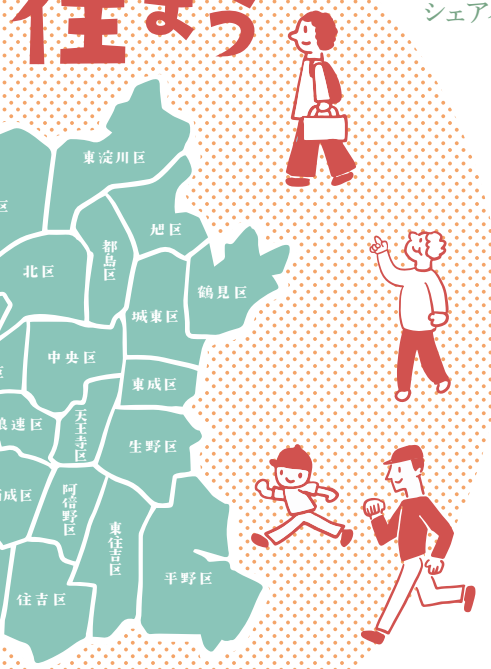


大阪くらしの今昔館news
調査資料の保存と活用について
コラム　時の記念日展示イベント「VIVA!!時の記念日」を開催しました
新収蔵品紹介　秋の行楽 松茸狩り

〈今月の表紙〉あんじゅに登場した大阪の住まい、暮らし

記念特集

住まう



1999年、大阪市立住まい情報センターに関する情報や都市居住の魅力を発信し99号をふりかえり、「住まう」「暮らす」「愉う」について考えます。

住まう ―集まって住む―

長屋
リノベーション
SOHO
シェアハウス
集合住宅
マンション
耐震化

愉しむ ―多彩な文化施設―

息づく
知
くいだおれ
親しむ
彩る
商店街
発信
古い
憩う
今昔
発見
新しい
気軽な
象徴
文化
アクティブな
日常
広げる
にぎわい
浪花
探検
物語る
多彩な

バックナンバーはこちら

『あんじゅ』は創刊100号を迎えました。
の開設と同時に創刊し、住まい、暮らし
てきました。100号特集ではこれまでの
しむ」の3つの切り口から「大阪に住ま

住まう
―集まって住む―

集合住宅、これからの維持管理

関川（せきかわ） 華（はな）さん（近畿大学建築学部建築学科准教授）

関川　華さん
フランスの集合住宅の管理体制について研究。近畿大学都市住宅研究室では住まいやまちづくりに関するあらゆるテーマを扱う。2022年より大阪市立住まい情報センター事業企画アドバイザー。

大阪市で暮らす人のおよそ7割が集合住宅に住んでいます（＊）。昭和30年代に登場し、都市居住の中心的存在となった集合住宅ですが、快適な住まいである一方、維持管理の難しさという課題を抱えています。あんじゅ45号の特集「マンションの未来を考える」でご登場いただいた関川華さんに現在の視点で集合住宅のこれからの維持管理やそのあり方について語っていただきました。

●維持管理とコミュニティづくり

集合住宅の維持管理におけるルール作りなどに関心があり、研究を続けている関川さんによると、日本の集合住宅におけるルールは1960年代ころから形作られてきたという。

「所有者や住民が全員で協力して管理するというのが、日本における区分所有法の考え方の基本」だと関川さん。「全員が維持管理の専門家ではないし、管理に関わる時間や金銭的な余裕がない人もいる。住民全員が同じ力量で管理にたずさわることはできないことも踏まえて、できる範囲で、一緒に掃除や緑地整備などをする。お互いの顔が見えて、コミュニティづくりにつながるので、少しでも管理にかかわるのがよい」と考えている。

●維持管理はとにかく面倒なことだと知る

所有者あるいは居住者として、少しは集合住宅の維持管理にたずさわるべきだとわかっていても、やはり面倒だと考える人のほうが多いのではないだろうか。そう尋ねてみると、「面倒くさいですよね。だからこそマンションも戸建も維持管理が面倒なものだとわかった上で購入するのがいいと思います」という答えが返ってきた。

一方で、2001（平成13）年にはマンション管理士という国家資格が誕生するなど、集合住宅の

編集者座談会
あんじゅ100号で振り返る「大阪の住まい」

住まう人々と一緒につくる

栗田ちひろ　本日はあんじゅの編集にたずさわった方々にお集まりいただきました。過去の記事を振り返りながら、大阪の住まいについてお話しできたらと思います。まずは弘本さんに、あんじゅ創刊の目的について伺います。

弘本由香里　大阪は豊かな住文化の歴史があり、職住遊が三位一体で揃っています。歴史や社会背景を含め、住まいの情報を発信し、時代にあわせた新たな住文化づくりに貢献できるツールとして創刊しました。大阪に住まう様々な人とつながって、一緒に作ってきた冊子です。

栗田　頻繁に取り上げてきたテーマの一つが長屋ですね。

弘本　**「人とまちを温かくつなぐ長屋の暮らし」（10号）、「大阪長屋サミット～長屋の魅力再発見！」（15号）**などですね。大阪長屋の認知を広める役割は果たせたと思います。とりわけ2010年代以降は職住一体型で小さな商いをするスタイルが増え、長屋がかっこうの受け皿となっています。

井戸廣子　長屋は修繕が大変。解体しかないと思っていた家主さんたちが、そういった人たちに貸すことで家が生きることを知った。住民同士の交流もあったり。

朝田佐代子　表紙が長屋の写真のあんじゅ**94号「長屋から考えるこれからの都市居住」**を見たことがきっかけで、相談に来られた長屋の家主さんがいました。

＊座談会参加者詳細はP9に掲載

維持管理のプロフェッショナルを育てる動きも。「第三者を管理者として取り入れようという動きもある。今後は、所有者や居住者など集合住宅にかかわる人がたずさわれる管理と、資産管理のプロによる徹底した管理の二重構造が必要になるのではないか。次世代に建築や空間を継承するには、居住者の管理だけでなく、プロによる厳しい管理体制も必要です」と話す。

● 住まいにもっと関心を向ける

集合住宅に住まう上で維持管理は重要だが、無関心な人が多いと関川さんは感じている。「高校の家庭科の教科書には区分所有法のことや、空き家問題についても触れられている。でも高校では学んでいないという学生もいる。教員の育成も含めて、住教育に力を入れられる授業開発ができたら」と考えているそう。

関川さんは「いまの学生たちは少子化の中で生まれて、将来は親と子どもの面倒を見て、親の買った住宅の管理も背負う可能性がある。管理を支える専門家の存在が将来彼らの背負うものを少しでも減らせるのではないか。既存の住まいを社会でどのように循環させるのかについて、誰もが考えるべきでしょう。自己責任、所有者責任だけを言う時代とはさよならして、もう少し先進的な考え方で住宅管理をやっていけたら」と思いを語ってくれた。

「フランスの住宅管理人は高齢者の見守りなど、コミュニティにかかわる人材として認識され、若い人にも職業として注目されつつあります」と関川さん。フランスの集合住宅管理について研究を続けている。

今回、関川先生のお話を一緒に聞いた都市住宅研究室の学生。関川さんの授業「居住管理論」を受け、維持管理に興味を持ったと話す3人。小田純平（おだじゅんぺい）さん（右）「管理を通したコミュニティづくりが大事だと考えている」、渡邊紗衣（わたなべさえ）さん（中）「居住価値と社会的価値、どちらも大切だが難しい」、堀井遥（ほりいはるか）さん（左）「間取りだけではなく、管理の面でも居住価値を高めることも重要だと知った」と感想を話してくれた。

＊ 平成30年住宅・土地統計調査

集合住宅の歴史を深掘り

栗田　私が取材した長屋はシェアハウスとして使われていました。

弘本　今はシェアハウスに暮らす敷居が低くなってきているように感じます。SNSなど情報面でも大きく変化しました。

井戸　ライフスタイルの多様化にマッチしてきたんですね。住むというよりも長期旅行のような感覚かも。

栗田　集合住宅関連では、**50号の「大阪の集合住宅の歴史をひもとく」**がとても勉強になりました。

井戸　この頃、今昔館に模型がある古市中団地の建て替えが進んでいました。古市住宅は完成当時、最新の集合住宅でしたが、それを高層化する段階を迎えていました。

弘本　大阪には都市に集まって住む知恵が蓄積され、いろんな集合住宅が生まれてきた歴史も伝えなくては、という思いでつくった企画でしたね。

（2023年春vol. 94）

（2012年春vol. 50）

あんじゅはウェブサイトでもご覧頂けます。

暮らす
―水の都大阪に暮らす―

わたし(たち)の水辺の楽しみかた

南（みなみ） 愛（まな）さん（水辺のまち再生プロジェクトメンバー）

1.城見橋からみた生活圏に近接した整備されていない水辺の風景。 2.橋の上から見える大阪城は緑とあいまってかっこいい。 3-1. 3-2.大坂橋から見た風景。東側（右）はOBP付近のオフィス街、北側（左）は寝屋川橋と京阪電車の線路。

リバーサイドの集合住宅や通勤・通学路にある水辺など、大阪には日常生活に隣接した水辺が多くあります。過去のあんじゅでも最も扱いの多いテーマが「水辺」です。あんじゅ1号で訪れた大川や37号で紹介した八軒家浜などの今の姿を、水辺を日常的に楽しんでいる南愛さんに案内していただきました。

◆身近にある水辺の風景

普段から生活圏内にある居心地のいい水辺を探しているという南さん。よく訪れるという鴫野（しぎの）付近から中之島までの水辺を案内してくれた。

スタートはオオサカメトロ今里筋線鴫野駅近くの小さな公園。歩いてすぐの城見橋は平野川と第二寝屋川にかかり、その名のとおり大阪城が見えた。さらに行くと、森之宮検車場や線路が見えてきた。「この辺りは店もなく、生活するための水辺で素朴な雰囲気。でも大阪の水辺に住む人は、こういう風景に馴染みがあるはず。美しく整備された場所だけでなく、日常の水辺も紹介したかった」と南さんはいう。

◆居心地のよい水辺を見つけて楽しむ

水辺のまち再生プロジェクト
大阪を中心に「遊ぶ、住む、働く」それぞれの場面で、水辺をより身近に感じ、楽しむアイデアを提案したり、実践したりするチーム。

南　愛さん
大阪市内在住。
大学では都市空間の再生やマネジメントについて研究。「水都大阪2012・2013」にボランティアとして参加した。現在はまちづくりの仕事などに携わる。

編集者座談会
あんじゅ100号で振り返る「大阪の住まい」

つづき

住むまち大阪のいつもの暮らし

弘本　**創刊号の「リバーサイドで健康的に暮らす」**で紹介した集合住宅に、久しぶりに訪れたらとても心地よい環境に成熟していて嬉しく思いました。

栗田　水辺も何度も登場するテーマですね。川だけじゃなく、海も池もあって、長堀のように埋められた川も紹介しています。

弘本　毎日自転車で天神橋を渡って通勤することを楽しむ人や、舟で通勤する人を紹介するという記事も。大川では、通勤用の運行は無くなりましたが、いろんなタイプの観光用の船が走っていますね。

栗田　大阪市内で暮らすと、舟で通勤するという選択肢があるのか、という驚きがありました。

井戸　そういう選択肢があることを知っているかいないかで、暮らしの楽しみがずいぶん変わりますよね。目新しさを追いかけるのではなくて、大阪のいつもの暮らしの中に、あんじゅの記事にしたいことがいくらでも見つけられます。

4.川沿いの飲食店がテラス席を設けることも当たり前の風景になってきた。
5.南さんがお花見をした場所から見える天満橋の風景。 6.歩行者空間化した中之島は水辺の公園としてますます魅力的に。

第二寝屋川の北岸を西へ、大阪ビジネスパークまで進む。一方はオフィス街、一方は緑豊かな大阪城公園という対比が面白い。南さんが「橋の上は視界が開けるので、大阪城が見えるスポットがたくさんあります」と言ったとおり、写真を撮りたくなる風景があった。

大阪城を離れて、大川を目指す。寝屋川が大川へと合流するすぐ手前にあるのが大坂橋だ。寝屋川沿いには先ほど歩いてきたオフィス街が見えて、大川方面には京阪電車の線路と天満橋駅が見える。

「大坂橋とこの先にある川崎橋のあたりは、プロジェクトメンバーとよく集まる場所です。眺めがよくて、広さもあるので、お花見に限らず食事をしたりして水辺を楽しんでいます」という南さんは水辺を楽しむ上級者だ。

スタートからここまでに渡ったり見たりした橋は10を超えた。水辺を歩いているから当然だが、どこも眺めが良く、大阪の水辺の魅力を感じられた。

◆変化する水辺を楽しむ

天満橋を横目に、大川から土佐堀川へ。八軒家浜から西は特に整備が進んだ、大阪の水辺を代表するエリアだ。大阪市中央公会堂の前が歩行者空間化し、さらに景観がよくなった。南さんが最後に案内してくれたのは、「キタハマミズム舟寄場（ふなよせば）」。水辺の新たな楽しみが生まれそうだ。

土佐堀川に誕生した「キタハマミズム舟寄場」。
今後の新たな賑わい、交流拠点としての展開が楽しみなスポット。

本藤記子 **14号の「都市を楽しむシングル流ライフスタイル」**も、普段の暮らしの紹介ですね。20～70代の住まいと暮らしの楽しみを取材した記事です。

弘本 居住の変化に目を向けました。今、大阪は単独世帯が50％を超えていますね。

朝田 一人住まいでも、あらゆる年代の人が安心して暮らしやすいまちかもしれません。

弘本 創刊から25年経って、時間を積み重ねたからこその視点で新たな発見ができそうです。

本藤 過去に取り上げたたくさんのテーマの中から、もう一度取材してみるのもいいかもしれないですね。

（1999年秋vol. 1）

（2003年春vol. 14）

愉しむ
―多彩な文化施設―

高島屋史料館（浪速区）
百貨店の歴史を詰め込んだ小さくて深い史料館

文化や芸術に触れられる場が身近にあるのも、都市居住の魅力。大阪市内の多様な文化施設をあんじゅでも取り上げています。あんじゅ46号「百貨店が届けた豊かさの歩み」では大阪の百貨店の歴史などを紹介しました。その中で登場した高島屋の歴史を伝える高島屋史資館へ大阪くらしの今昔館の増井館長とともに訪ねました。伊藤誠人史料館長と研究員の高井多佳子さんに解説いただきながら館内を巡りました。

1

3

2

株式会社高島屋　高島屋史料館
史料館長 **伊藤 誠人**（いとう せいじん）さん
学芸員・研究員 **高井 多佳子**（たかい たかこ）さん
大阪くらしの今昔館
館長 **増井 正哉**（ますい まさや）さん

高島屋史料館
高島屋の歴史を伝える史料館。1970（昭和45）年に高島屋東別館3階に開館した。2020（令和2）年に全面リニューアル。創業以来蓄積してきた貴重な収蔵資料はおよそ5万点。アーカイヴス展示室と企画展示室がある。入館無料。

高島屋史料館

百貨店通りに残る名建築

高島屋大阪店の東側にあるなんさん通りを堺筋まで歩くと、高島屋東別館に到着する。外壁に美しい装飾が施された重厚な雰囲気の建物は、2021（令和3）年に国の重要文化財（建造物）に指定された。その3階に高島屋史料館がある。

堺筋は大正末期の大大阪時代、いくつもの百貨店が建ち「百貨店通り」と呼ばれていた。伊藤館長は「戦前の建築が見られる貴重な場所。当時はまだ珍しかった全館冷暖房完備で、1階から全て煌びやかなしつらえになっていた」と話す。

展示室の奥にあるエレベーターホールは建設当時の姿を残している。「お客様を華やかな別世界にいざなうためのデザインがほどこされていた」と高井さんはいう。生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪に参加する名建築の一つだ。

最新のデジタル技術を活用

高島屋史料館はおよそ5万点の資料を収蔵している。今回はアーカイヴス展示室を案内頂いた。「アーカイヴス展示室では、限られた展示スペースの中で収蔵品をできるだけ数多く見ていただけるように、最新のデジタル技術を導入

編集者座談会
あんじゅ100号で振り返る「大阪の住まい」
つづき

商店街いろいろ

井戸　**百貨店や商店街**も取り上げていますね（**46号、90号他**）。

弘本　身近な商店街の多彩さは大阪の特徴の一つですよね。

井戸　通路の両側に店舗があって、アーケードがあって、ちょっと狭い。天神橋筋商店街の天五から天六あたりのように、狭いからより賑わいを感じる。天神祭の時の混雑でさえ楽しめてしまう。

弘本　商店街ごとに成り立ちが違って、いろんな歴史的背景があるのが面白いです。社寺の参詣道とか公設市場を核にとか、住宅地開発とセットでできたとか、住まう人が自ら立ち上げた商店街もある。

井戸　商店街によっては利用する人が減って、下火になってきているところもあるけれど。

弘本　それでも、商店街はコロナ禍で良さが見直されたように感じます。開放感があって、適度な距離で声

1.正面から見た髙島屋東別館。アーチ型の装飾が美しい。提供：髙島屋史料館　2.建設当時の姿を残すエレベーターホール。3.エレベーター扉上の上り・下りの手書き表示がかわいい。　4.「髙島屋コレクションボード」では厳選された700点余の収蔵品を大画面で見ることができる。　5.建物の歴史を素敵なイラストで紹介するプリント。　6.右から伊藤館長、研究員の高井さん、今昔館増井館長。手前は髙島屋東別館の1／100ジオラマ。　7.広告宣伝コーナー。襖型の展示壁で数多くの資料を展示している。　8.昭和初期から取り入れられた洋装。当時のデザイン画などから再現している。

しています」と高井さん。

まず最初に驚くのが、受付ロビーの壁面にある大きなディスプレイ「髙島屋コレクションボード」だ。タッチパネルになっており、お気に入りを3つ選ぶと解説をプリントしてくれるサービスもある。

展示は髙島屋の理念紹介と歴史年表から始まる。壁面に投影された年表も手で触れるとスクロールでき、解説が表示される。「年表をデジタル化したことで、コロナ禍の出来事など最新の情報も追加することができます」と高井さん。他の百貨店や経済・社会の歴史も併記されており、幅広く深く知ることができる。

楽しく余すところなく見せる

年表や理念を紹介する「進取の精神」コーナーに始まり、「美・アート」「暮らし」「まちづくり」「未来へ」というテーマ別の展示が続く。日本で初めて髙島屋が取り入れたというショーウィンドウは、明治期から現代までの写真をスライドショーで見せている。髙島屋のマスコット「ローズちゃん」、呉服、広告宣伝物などの実物展示は時節に合わせて入れ替える。百貨店が衣食住のすべてにかかわり、多様な楽しみを提供してきたことがどの展示を見ても伝わってくる。

伊藤館長と高井さんの解説付きという贅沢なガイドツアーを終えて、増井館長は「長く百貨店で育まれてきたサービスの文化、それを形にする意匠力を理解し、感じることができる展示施設でした。どの時代でも百貨店は暮らしのスタイルをつくってきたことがわかります。こうした都市居住を豊かにしてくれる魅力的な文化施設を今後もあんじゅで取りあげていきたいですね」と語った。

を掛け合える。

井戸　いろんな商店街があって、行ってみたいなと思える場所がたくさんある。

弘本　すごく恵まれたまちですよね。

（2022年春vol. 90）

歴史に触れながら今の情報も伝える

弘本　振り返って読んでみると、歴史的背景を大切にしながら、新しいまちの様子や暮らし方を伝えているのがあんじゅの特徴だと改めて思いました。

栗田　人を中心にしながら、地域のことや、住まいに関する施策や制度を伝えていく役割がありますね。

弘本　取材に行くことで人とつながることも大きな目的です。つながった人を介して、住まい情報センターを活用する人が増えてくれたらいいですね。

元編集スタッフからのメッセージ

取材を通じてたくさんの人に出会い、沢山パワーと元気をいただきました。なかでも印象に残っている取り組みは、**75号：DIY賃貸で暮らす**。この号では、斬新なアイデアでこれまでの賃貸住宅オーナーとしての枠を超えたマネジメントを実践している事例のお話を聞くことができました。現地へ出向くと、100m区画の新しい集合住宅の空間が広がっていました。建物内部を案内してもらったところ、おしゃれにリノベーションされた庭やカフェのある住空間が創造されていて、ワクワクとした気持ちになったことを今でも覚えています。入居者にこの場でどんなまちづくりをしたいかの面接がおこなわれたり、入居前に床のワックス塗りや餅撒きなど楽しいイベントを企画されたりなど、志を同じくする人が人を呼ぶ仕掛けをつくり、その人たちが住み着くことでまちのイメージが醸成されていく、賃貸の新しい形を垣間見ることができました。
（ミュージアム担当係長玉井）

あんじゅのバックナンバーは全刊ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」からご覧いただけます。ぜひご覧ください。

初期メンバーとして20年以上前にかかわっていました。
当時、「住むまち大阪STYLE（※）」というコーナーがあったのですが、まちの魅力や暮らし方が紹介されていました。商店街、町家、大阪に残る歴史、自然、お祭りなどいろいろな切り口があり、こんなところにこんな魅力があったのかと面白い企画でした。取材されている方の中には、今では有名になった方の若いころのインタビューもあります。
住まい情報センターでは、いろいろなセミナーやシンポジウムを行っていますが、当時一般的ではなかった中古マンションのリノベーションや長屋の再生などを早くから取り上げています。あんじゅではその内容を記事として掲載しているので、今も見ることができるのは記録として貴重だと思います。（I・Y）

19号から34号まで関わっていました。
「住むまち大阪STYLE」は、テーマ選びと取材先にいつも苦労していた気がしますが、仕事としては大変楽しいものでした。今回お勧め記事を選ぼうと思いましたが、難しく、諦めました。編集に携わった時から20年ほど経って、記事を読み返しましたが、今はもうお話を聞けない方もおり、感慨深いです。「住むまち大阪STYLE」としては12回の記事に関わりましたが、欲張りですが、全てを読んでいただきたいなと思いました。
これからも大阪の住むまちとしての魅力をしつこく取り扱ってください（笑）（T・M）

※「住むまち・大阪STYLE」は大阪市内のさまざまなスポットやシーンを取り上げ、都市での快適な住まい方、魅力ある暮らし方を見つけていく記事の名称です。1号から79号まで継続し、以降は「特集」としてテーマを引き継いでいます。

編集者座談会 こぼれ話

編集にたずさわったみなさんの座談会では、他にもたくさんの話題が出ました。P3-P8に掲載しきれなかったテーマをご紹介します。

食
伝統野菜（21号）とか、**だし（25号）**、**コナモン（59号）**など食もいろいろ取り上げた。**老舗の和菓子屋さん（47号）**にも行きました。自分たちが住むまちの文化を伝える特集がたくさんあります。（本藤）
長く続けておられる小さな老舗のお店を支えているのは、地元や近所の人。（井戸）
和菓子の老舗もたくさんあって、季節ごとにお茶を楽しんだり贈答したりする文化がある。それを伝えるのは大切ですね。（弘本）

歴史
「町名はタイムカプセル」（43号）をもう一度やってみたい。住んでいる人しか知らない町名がたくさんあるはず。いろんな地域にある地名の由来などを取材したい。（井戸）

祭
だんじり（88号）や、**地蔵盆（71号）**も取り上げました。だんじりを取材したのは1度だけですが、今だにウェブ版のアクセス数が多い記事です。（栗田）
だんじりや地蔵盆は地域に根付いたものなので、外に向けた情報発信は少ない。あんじゅだからこその記事かもしれませんね。（弘本）
お祭りは生活の一部のような、地域の暮らしにある楽しみの一つ。普段会えない人とも会える。（井戸）

座談会に参加したみなさん

弘本 由香里（ひろもと ゆかり）さん
大阪ガスネットワーク株式会社 事業基盤部 エネルギー・文化研究所（CEL）特任研究員。住まい情報センターの立ち上げから関わる。あんじゅは1号から担当し、78号まで制作に携わる。

井戸 廣子（いど ひろこ）さん
大阪市マンション管理支援機構 担当主査。35号から50号までを担当。もう一度やってみたいテーマは43号の「町名はタイムカプセル語り継ぐ大阪の記憶」。

朝田 佐代子（あさだ さよこ）さん
大阪市立住まい情報センター 副所長。印象に残っているのは94号「長屋から考えるこれからの都市居住」。

本藤 記子（ほんどうのりこ）さん
大阪市立住まい情報センター企画担当係長。やってみたいテーマは17号「集合住宅コミュニティで、快適につながり合う暮らし」。

栗田 ちひろ（くりた）さん
大阪市立住まい情報センター。現編集スタッフ。やってみたいテーマは26号「数百年、人々を見守るまちかどの巨木に憩う」。

大阪市立 住まい情報センター のご案内

●住まいに関するご相談をお受けしています 無料

■住まいの一般相談（随時／窓口相談・電話相談）

公的賃貸住宅などの住まい探しをはじめ、住まいを購入するときや建てるときの一般的な注意点、分譲マンション管理に関する情報や大阪市を中心とした住宅施策などに関するご質問に、窓口または電話で相談員が対応します。まず相談内容をお聴きして、問題点の整理・解決のために必要な知識や情報を提供します。英語、中国語、韓国・朝鮮語にも対応します。（外国語対応は17時まで）

相談専用電話（06）6242-1177

■住まいの専門家相談（予約制／面接相談）

ご予約は30日前からお受けしています。

お申込みに際しては、相談員が一般相談で内容をうかがってから予約します。詳しくはお問い合わせください。

専門家相談日時		内容
住まいの法律	おおむね毎週土曜日（10時～13時30分）	借家・借地・土地・建物・相続等に関する法律上の相談（弁護士）
住まいの資金計画	おおむね月1回土曜日（10時30分～12時）	住宅取得やローン返済、高齢期の住まいと暮らしに関する資金計画等（ファイナンシャルプランナー）
建築・リフォーム	おおむね隔週土曜日（10時～13時）	建築設計や施工上の問題・建築関係法令等（建築士）
分譲マンション（法律）	月1回日曜日（13時～16時）	管理組合運営・管理規約等に関する法律上の相談（弁護士）
分譲マンション（管理一般）	おおむね毎週木曜日（14時～18時）	管理組合運営・管理規約・長期修繕計画等に関する相談（マンション管理士）

■連携機関による定期相談（面接相談）

（公社）大阪府建築士会による建築相談：
毎週日曜日13時～16時（受付は当日の12時30分～15時30分）
※12時30分に相談を受ける順番の抽選があります。

近畿税理士会による税務相談（予約制）：
毎週土曜日（但し、2・3月を除く）13時～16時
（TEL.06-6242-1177で予約受付）

●住まいのライブラリーで図書・雑誌などを利用できます

住まいやくらし、大阪に関する図書、建築本や雑誌、機関誌、ミニコミ誌、企業広報誌、絵本などを自由に閲覧していただけます。また、図書の貸し出しも行っています（一部を除く）。 無料

4階 住まいのライブラリー

●ホール・研修室をイベントや展示会・サークル活動・会議・研修会の場としてご利用いただけます 有料

3階 ホール

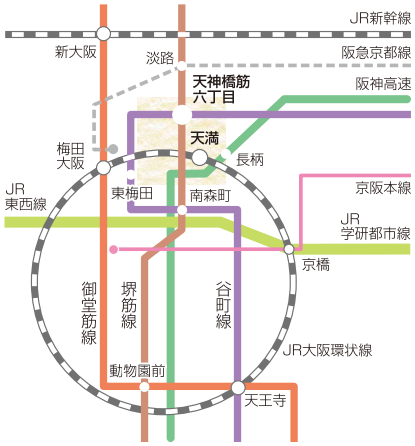
定員：椅子のみの場合／300席（常設194席）
机利用の場合／150席
※控え室もあります。

5階 研修室

定員：机利用の場合／常設54席
椅子のみの場合／70席
※研修室は区切って、少人数でもご利用いただけます。

大阪市の公的賃貸住宅や各種制度を掲載している大阪市住まいのガイドはウェブサイトからご覧頂けます。

インフォメーション



〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 大阪市立住まい情報センター4階
TEL.06-6242-1160　FAX.06-6354-8601
おおさか・あんじゅ・ネット　https://www.osaka-angenet.jp/

交通アクセス
- Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電鉄「天神橋筋六丁目」駅下車3号出口直結
- JR大阪環状線「天満」駅から北へ約650m
- お車でお越しの場合は阪神高速道路「守口線」長柄出口 都島通り経由、約500m

開館時間
- 4階 住情報プラザ（相談・ライブラリー）
  平日・土曜日／9:00～19:00
  日曜日・祝日／10:00～17:00
- 3階 ホール／5階 研修室・会議室
  平日・土曜日／9:00～21:00
  日曜日・祝日／9:30～17:00

休館日
- 火曜日（祝日の場合は翌日）
- 祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）
- 年末年始（12/29～1/3）

※上記のほか臨時休館する場合があります。

大阪市立 住まい情報センター

セミナー・イベントガイド 2024年

※やむを得ない状況により、定員の変更やセミナーを中止する場合がございます。その場合は「おおさか・あんじゅ・ネット」等でお知らせします。

1 住まい情報センター 主催イベント

住まい情報センターが主催するセミナー・イベントです

■住まいの基礎知識

◎住まいの維持管理(全3回)

第1回 メンテナンス編「戸建住宅のメンテナンス」

- 日時:10月5日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:中村知彦・妹尾和江(NPO法人日本ホームインスペクターズ協会近畿エリア部会 ホームインスペクター)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)

第2回 空き家対策編「空き家の管理・利活用」 個別相談のみ当日抽選

- 日時:10月19日(土)13:30〜15:00
- 場所:3階ホール
- 講師:金森匡邦((一社)大阪府不動産コンサルティング協会副会長)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)
- 個別相談:定員10組(事前申込要)

第3回 リフォーム編「住まいのリフォーム」

- 日時:10月26日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:角直弘((公社)大阪府建築士会 住宅を設計する仲間達所属建築士)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)

◎住まいを借りる(全3回)

第1回 家を借りて住む〜家探し・契約から退去まで〜

第2回 住まいの引っ越し

- 日時:11月9日(土) 第1回 13:30〜15:00 第2回 15:15〜16:15
- 場所:3階ホール
- 講師:第1回 戎野京子((一社)大阪府宅地建物取引業協会研修インストラクター) 第2回 近畿運輸局大阪運輸支局
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)

第3回 シェア居住入門

- 日時:11月23日(土・祝)13:30〜15:00
- 場所:3階ホール
- 講師:和田俊信((一社)大阪府宅地建物取引業協会研修インストラクター)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)

◎相続した賃貸不動産どうする? 負動産にしないために(全2回)

大家の役割 第1回 維持管理・活用

- 日時:12月14日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:柏元真理子(がんばる家主の会)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)

大家の役割 第2回 税金 個別相談のみ当日抽選

- 日時:1月18日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:西田豊(近畿税理士会税理士)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)
- 個別相談:定員4組(事前申込要)

◎住まいを購入する(全10回)

第10回 住まいのお金編②「税金と確定申告」 個別相談のみ当日抽選

- 日時:1月25日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:西田和生(近畿税理士会税理士)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)
- 個別相談:定員4組(事前申込要)

■三都連携事業

被災後の生活再建と住情報

- 日時:11月16日(土)13:30〜16:00
- 場所:3階ホール
- 講師:菅野拓(大阪公立大学大学院准教授)ほか
- 定員:会場50名オンライン50名(いずれも申込先着順)

2 住まい情報センター タイアップイベント

住まい情報センターと住まい・まちづくりの専門家団体等が共催するセミナー・イベントです

■チャレンジタイアップセミナー

少しでも長く住み慣れた自宅で生活が出来る片づけ、清掃、生前整理の自立支援型のお部屋作り〜在宅介護の限界を超える〜

- 日時:11月2日(土)
  第一部10:30〜12:00
  第二部12:30〜14:00
  第三部14:30〜16:00
- ※会場内では5つのコーナーに分けられ、自由に移動できます。
- ①片づけコーナー
- ②清掃コーナー
- ③生前整理コーナー 写真整理
- ④生前整理コーナー 思い出の物 心の整理
- ⑤生前整理コーナー 情報の整理
- ※各部内容は同じです。
- 場所:3階ホール
- 定員:各部 50名(申込先着順)
- 団体:一般社団法人日本清掃収納協会

■タイアップ+plusセミナー

来るべき巨大地震に備える〜大地震で土地を失わないために今できること〜

個別相談のみ当日抽選

- 日時:12月7日(土)13:30〜15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:正井利明(大阪土地家屋調査士会会員)
- 定員:会場50名オンライン100名(いずれも申込先着順)
- 個別相談会:定員8組(1組30分、前後半4組ずつ)
- ※土地境界問題や境界の確定についてのご相談に応じます。会場開催のみ(事前申込要)
- 団体:大阪土地家屋調査士会

3 その他 住まい関連イベント

■大阪市マンション管理支援機構

マンション管理基礎セミナー

- 日時:①10月27日(日)・②11月4日(月・振休)・③11月10日(日) いずれも13:30〜16:00
- 場所:3階ホール
- 定員:150名(会場100名、オンライン50名)(申込先着順)

ミニ交流会

- 日時:12月5日(木)19:00〜20:20
- 場所:5階研修室
- 定員:10名 区分所有者や分譲マンションにお住まいの方が対象です。申込多数の場合は、登録管理組合の方を優先して抽選します。
- 申込締め切り:11月28日(木)

大規模修繕工事見学会

- 日時:11月30日(土)13:30〜16:00
- 場所:都島区の分譲マンション
- 定員:30名 申込多数の場合は、登録管理組合の方を優先して抽選します。
- 申込締め切り:11月19日(火)
- お問合せ先:(各イベントとも)大阪市マンション管理支援機構 事務局電話(06-4801-8232)

■共催事業

「家事シェア&チーム家事」を実現する! 住まいづくりのコツ

- 日時:11月30日(土)14:00〜16:00
- 場所:3階ホール
- 講師:三木智有(家事シェア研究家)
- 定員:会場50名オンライン50名(いずれも申込先着順)
- 申込締め切り:11月20日(水)
- お問合せ先:クレオ大阪子育て館電話(06-6354-0106)

参加申し込み方法

- ●ウェブサイトからの申し込み
  申し込みは開催日の約2カ月前からになります。
- ●はがきまたはFAXで申し込み
  記入事項を明記し、下記の住所、FAX番号へお申し込みください。
  〒530-8582(住所不要)大阪市立住まい情報センター4F
  FAX:06-6354-8601
- ●記入事項:イベント名、住所、名前(フリガナ)、年齢、参加希望日、電話番号、手話通訳希望の有無、個別相談希望の有無など
- ●参加費は特記以外無料、要事前申し込み。申込先着順の場合は、定員になり次第締切。抽選の場合は、締切後も定員に満たない場合は引き続き募集します。
- ●申し込みの際の個人情報は、主催者で適切に管理し、イベントに関する連絡、統計データおよびイベント保険(必要な場合)への加入にのみ利用します。
- ●午前8時45分時点で、「暴風警報」が発令されている場合は中止とさせていただきますが、セミナー開始3時間前までに解除された場合はセミナーを実施します。
- ●手話通訳をご希望の方は開催2週間前までにお問い合わせください。
- ●オンライン受講を希望される方はウェブサイトからお申し込みください。

【注 意】
一部のイベントを除き、参加証の発送はありません。
「申込先着順」のイベントにお申し込みいただいた場合は、イベント開催当日、直接会場にお越しください。「抽選」の場合に限り、はがきかEメールで当落をお知らせします。

おおさか・あんじゅ・ネット
▶https://www.osaka-angenet.jp

あんじゅ読者アンケートにご協力ください!!
みなさんのお声をさらなる紙面づくりに活かします。

ぜひご登録ください。
メルマガにご登録頂きますと、住まい情報センター主催のイベント情報が登録メールに配信されます。

あんじゅ バックナンバーは こちらから

大阪くらしの今昔館 2024年10月～12月 催し物ガイド

充実した展示や楽しいイベントなど、盛りだくさんな内容でお楽しみください。

企画展

「布のすがた―いまむかし」

◆会　期：前期：令和6年10月23日（水）～令和6年12月8日（日）
　　後期：令和6年12月11日（水）～令和7年2月2日（日）
◆休館日：毎週火曜日、展示替期間（12/9～12/10）、年末年始（12/29～1/3）
◆主　催：大阪くらしの今昔館　布のすがた実行委員会
◆後　援：学校法人塚本学院 大阪芸術大学
◆協　賛：塚本学院校友会　（株）田中直染料店
◆観覧料：500円（企画展のみ）

揚羽蝶円紋金襴錦打掛
明治時代 今昔館蔵（通期展示）

日本人のくらしや文化と密接に関わってきた「染織」にスポットを当て、大阪芸術大学工芸学科テキスタイル・染織コース出身の現代の染織家達の作品と大阪くらしの今昔館の収蔵品との共演により、新しい布のすがたを発見し、染織文化の奥深さや動向を広く発信します。

常設展

■商家の賑わい
令和6年9月7日（土）～令和7年4月上旬まで

■季節のしつらい
□誓文払い
令和6年11月16日（土）～12月1日（日）
□正月飾り
令和6年12月25日（水）～令和7年1月13日（月・祝）

イベント

■第19回子ども落語大会入賞者記念公演
10月6日（日）　10:00～12:00（観覧無料・先着順）
・開催場所：天満天神繁昌亭（大阪市北区天神橋2-1-34）
　Osaka Metro谷町線・堺筋線南森町駅徒歩3分、JR東西線大阪天満宮駅徒歩3分
・今昔館にて開催された子ども落語大会の入賞者が繁昌亭の大舞台に立ちます。

■[イケフェス大阪2024関連企画] カンナがけ体験と町家の特別公開
10月26日（土）～27日（日）　13:30～16:00
・大阪各地で開催される「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2024」にあわせ、カンナがけ体験と小屋組みがみられる町家2階の特別公開を開催します。

■筑前琵琶
11月23日（土・祝）　14:00～15:00
・繊細な音色で表現される物語、琵琶の世界へ。
・出演：竹本旭将、福井旭巽

■狂言
12月15日(日)　14:00～15:00
・洗練された笑いの芸術をお楽しみください。
・出演：増田浩紀、他

■OSAKA BUNRAKUシリーズ「Een-chaw！ Bunraku～ええんちゃう！文楽」
12月21日(土)　①14:00～14:45 ②16:00～16:45
・文楽の三業（太夫・三味線・人形）の解説・実演と体験。
・主催：大阪市／文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会（大阪市、公益財団法人文楽協会）

ワークショップ

■ふくろうストラップ作り
10月12日(土)　13:30～15:00
・材料費：300円　・当日先着20名

■つまみ細工を作ろう
10月13日(日)　13:30～15:00
・材料費：300円　・当日先着16名

■カンナの削り花作り
10月26日(土)　13:30～15:00
・材料費：200円　・当日先着20名

■ポスターで紙袋を作ろう
11月9日(土)　13:30～15:00
・材料費：100円　・当日先着20名

■手ぬぐい遊び
11月10日(日)　13:30～15:00
・材料費：200円　・当日先着16名

■バランスとんぼと どんぐりやじろべえを作ろう
11月23日（土・祝）13:30～15:00
・材料費：200円　・当日先着20名

■ミニコースター作り
12月8日(日)　13:30～15:00
・材料費：100円　・当日先着16名

■正月祝箸袋を作ろう
12月14日(土)　13:30～15:00
・材料費：200円　・当日先着20名

■年末掃除体験とはたき作り
12月28日(土)　13:30～15:00
・材料費：300円　・当日先着20名

■簡単折紙
毎月 第4水曜日　14:00～15:30
・材料費：100円

■折り紙を折ろう
偶数月 第3土曜日　13:30～15:00
・材料費：100円　・当日先着16名

■鶴のつなぎ折り
奇数月 第3日曜日　13:30～15:00
・材料費：100円　・当日先着16名

■おじゃみ作り
毎月 第1日曜日 13:00～15:00
・材料費：200円
・当日先着15名

見て聞いて楽しむ

■上方ことば塾
毎月 第2日曜日　14:30～15:00

■今昔語り
毎月 第3日曜日　14:30～15:00

■紙芝居
毎月 第1土曜日　14:30～15:00
毎月 第3日曜日　11:00～12:00

■絵本で楽しい時間
毎月 第4日曜日 14:30～15:00

■芝居語り
毎月 第4日曜日
①13:00～ ②14:00～ ③15:00～

大坂について学ぶ

■町家ツアー
平日・土曜日 10:20～
日曜日・祝日 13:10～

■町の解説
毎月 第1・3日曜日　13:00～15:30

※入場料（常設展）が必要です。
※費用の記述がないものは参加無料です。
※材料費は、当日お支払いください。
※日程等、予告なく変更になる場合がありますので予めご了承ください。
※定員があるイベントは8階受付で12時から参加券を発行します。
※ワークショップは定員に達し次第終了します。

大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館

【9階なにわ町家の歳時記】
江戸時代の大坂の町並みを実物大で再現。大通りには、風呂屋や本屋、薬屋などが並び、ひときわ高い火の見櫓も。路地を抜けると裏長屋の庶民の生活をかいまみることもできます。

【8階モダン大阪パノラマ遊覧】
近代大阪の代表的な住まいと暮らしをジオラマや資料で再現。

"たてもの御財印めぐり"に参加中！
9階展示室前にて頒布しております。
※入場料が必要です

開館時間	10：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日	火曜日 年末年始 その他臨時休館あり
10月～12月の休館日	10/ 1. 8. 15. 22. 29 11/ 5. 12. 19. 26 12/ 3. 10. 17. 24. 29～1/3
入場料	一　般　600円／団体500円（20人以上） 高・大生　300円／団体200円（20人以上） ※中学生以下、障がい者手帳・ミライロID原本等持参者（介護者1名含む）、市内在住の65才以上無料（要証明書原本提示） ※企画展示の観覧料は別途必要です。
交通機関	●Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電車『天神橋筋六丁目』駅下車3号出口より住まい情報センター建物の地階へ連絡、エレベーターで8階へ ●JR大阪環状線『天満』駅から北へ約650m

〒530-0041
大阪市北区天神橋6丁目4-20（住まい情報センタービル8階）
TEL：06-6242-1170　FAX：06-6354-8601

調査資料の保存と活用について

北船場模型

開設時の調査資料とアーカイヴ化

今昔館の常設展示（9階の再現町並み・8階の模型・ジオラマ）、そして音声・映像などの環境演出は、それぞれ綿密な調査と研究に基づいて作られました。この調査と研究には、開設準備を進めていたスタッフのほか、大勢の専門家が参加しました。市内外の古い建物や通り・路地の調査、文献資料・絵画資料の調査等、さまざまな調査による資料が今昔館に残され、再現・制作の学術的な根拠資料になっています。

今回、こうした調査資料を系統だててアーカイヴ化していくことになりました。アーカイヴ化の目的は、資料を適切に保管することに加えて、将来的な活用の基盤を作ることです。具体的には、学術資料としての活用だけでなく、再現町並みや模型・ジオラマ制作の細部に込められた意味をより深く掘り下げ、展示とその体験・理解を深めるメディアを充実させていくことが期待されます。

資料の形態は、文書・刊行物、会議資料・図面、それに実測図・聞き取りの記録などのいわゆる紙もの、写真（焼き付け・ネガ）、録音・録画など様々です。中性紙の保管ケースに移すなど、形態に応じて保管環境を整え、長期の保管が難しいものは、適宜デジタル化を進めます。また、一部はテキスト化を行って活用しやすい形に直すことも検討しています。整理にあたっては、展示企画と調査を主導してきた新谷昭夫（しんたにあきお）さん（当時・主査、元・今昔館副館長）の指導のもとで作業しています。

北船場調査資料の例

「北船場」模型制作の調査資料

「北船場」模型制作のための調査記録を見てみましょう。調査を担当した森下尚美（もりしたなおみ）さん（当時・大阪市立大学大学院生）が、あんじゅ11号／「大阪くらしの今昔館ニュースVOL.4」（平成14（2002）年6月）の記事で調査の内容を語ってくれています。

模型は昭和7（1932）年の北船場、堺筋と道修町通・平野町通を中心とした一角です。明治末に堺筋が拡幅（軒切り）されて市電が通り、昭和に入ってから平野町通が拡幅されて、江戸時代から大阪の中心地だった町並みが近代的な都市に変貌していく様子が再現されています。150m四方の範囲で、建物は137棟あり83世帯が住んでいました。すべての建物に番号を打ち、当時の居住者・勤務者を探して、面談、電話による聞き取りを行いました。調査が行われたのは平成11年12月から平成12年3月ごろです。

この時に収集した資料としては、図面・文書類・写真アルバムの複写物、お店・事業所のパンフレット類などのほか、建物番号ごとに整理された聞き取り調査の記録が注目されます。自分の住まい・勤務先のことを、一生懸命に思い出していただいたことが伝わる内容です。間取りや屋敷構えのスケッチ、住まいの内外の思い出などと、アルバムの写真と併せてみると、具体的なくらしぶりがよくわかります。「○○さんの蔵がすぐ迫っていた」など、近隣の建物の特徴、住民の思い出も加わることもあり、横型の情景描写に役立ちました。聞き取り調査のあとにも、情報提供を続けてくださった方もいて、その手紙も残っています。

あの時だからできた調査

聞き取り調査に協力くださった方は明治から昭和一桁生まれの方がほとんどです。江戸時代・明治はじめの建物が数多くの残るなかで、軒切りと市電開通・店構えの変化・ビルの建設など、北船場の近代化を実際に体験してこられた方から寄せられた情報は、模型には反映されていない内容も含めて、今では得難いものばかりです。その後の変化をみても、今昔館開設にあたって、こうした調査ができたことは幸運だったのかもしれません。

コラム

時の記念日展示イベント「VIVA!!時の記念日」を開催しました

6月10日の「時の記念日」にあわせて、西洋から日本に入ってきた幕末から昭和初期の時計を中心に100点近くを展示しました。場所は近代の常設展示室とミュージアムロビー、展示期間は6月8日から7月8日の1か月間でした。

居留地と商館時計

今昔館の近代常設展示室には、慶応4(1868)年の大阪開港にともない、外国人の居住地として設けられた「川口居留地」の模型があり、そのなかに初期に時計を輸入販売したスイスのファブルブラント商会の建物があります。当時、横浜や川口など、居留地に住む外国人から、西欧の建築・土木技術や工業技術とともに、西洋の生活様式や文化が伝わりました。これにあわせて、西洋の時間の概念が持ち込まれ、時間を現す道具としての時計が輸入されるようになりました。元治元年(1864)年、横浜の外国人居留地では、日本と国交を樹立したスイスから時計を輸入販売する商館(商社)がフランソワ・ペルゴによって設立され、スイスからの時計輸入のほか、日本人の好みを研究した時計の開発や、日本での製造もあわせて行うようになります。ペルゴの協力のもと、スイスの時計商人のファブルブラントも同年に横浜の居留地に商館を開設し、販路拡大のために川口居留地にも商館を構えたのがこの模型にある商館です。海外からの輸入販売に携わる商館が、自館のマークなどを刻印し販売していたものは、「商館時計」と呼ばれました。

商館時計や記念製造の懐中時計・腕時計の変遷の展示

古時計の展示

当時の輸入時計は、大きな盤にローマ字が並び、手巻きゼンマイでバネを回すいわゆる懐中時計です。今回の企画には古時計クラブの方々にご協力をいただきました。古時計クラブは時計愛好家が集うクラブとして40年前から活動を続ける団体です。時計の愛好家・収集家だけではなく、アンティーク時計の歴史研究や機械設計の側面からの研究を進める専門家、設計・修理を手掛ける時計士が在籍されています。展示した時計は、古時計クラブの皆さんから出陳していただいたものでした。

希少価値の高い懐中時計や、掛け時計、仕掛け時計、腕時計、アンティーク時計を現代仕様にアレンジしたものまで、幅広い展示となりました。時の記念日のアンティークポスターも注目を集めました。展示解説のなかに二次元バーコードを示してクイズを楽しめるようにしたことも新しい試みでした。

「時の記念日」ポスターと置時計・掛け時計などの展示

ワークショップと講演会

時の記念日には、展示に関連して、古時計クラブにご協力をいただいてワークショップと講演会を行いました。「商館時計に触れてみよう」と題したワークショップでは、実際の商館時計を使って扱い方や仕組みなどを学びました。懐かしさに立ち寄る方、格好良さに惹かれる若者、機械の仕組みに目を輝かせた子供たちが参加しました。講演会「商館時計の魅力」と「修理の面白さ」では、日本における時計の歴史と、講師の大川展功(おおかわのぶよし)さんのアンティーク時計との出会いなどのエピソードを加えたお話を、時計修理に携わる西村建二(にしむらけんじ)さんからは時計の仕組みや時計修理の魅力を具体的な事例を挙げながらお話いただきました。参加者の中からは、「修理が必要な時計があるがどうすればいいかわからなかった」という声があがり、関心の高さが伺えました。

ワークショップの様子

volume. 93
大阪くらしの今昔館 news
行って、見て、発見！

新収蔵品紹介

秋の行楽 松茸狩り

服部 麻衣（大阪くらしの今昔館学芸員）

【図4】「金竜寺山の松茸狩」『摂津名所図会』より

【図2】（右下）松茸を調理する様子（左上）松茸を飲食する男女

【図1】「松茸山」五井金水筆 絹本墨画淡彩 年代不詳 当館蔵

【図3】松葉模様の表具

秋の味覚「松茸」にちなんで、五井金水による「松茸山」を紹介します【図1】。絵の上部には山に分け入って松茸狩りをする男たち、手前には包丁や鍋を並べて、採れたての松茸をその場で調理をする様子、中央には葭簀の覆いに緋毛氈を敷き、重箱や酒を広げ、飲食する男女が描かれています【図2】。さらに「松茸山」の表具の裂（生地）に注目すると、風袋と一文字は松葉の模様で、画題にちなんで仕立てている点も楽しい趣向です【図3】。

この絵を描いた五井金水（1879-1942）は明治後期から昭和初期にかけて大阪で活躍しました。大阪くらしの今昔館は2023年、金水の遺族のもとに保管されていたコレクション40件の寄贈を受け、展覧会を開催しました。この「松茸山」はこれらの資料群をさらに充実させるべく、新たに収集したものです。

「松茸山」という画題は、江戸時代の大坂の様子を伝える地誌『摂津名所図会』に、「金竜寺山の松茸狩」として描かれています【図4】。また、金水のもとに伝来した下絵や売立目録の記録から金水の大師匠である西山芳園がほぼ同じ構図で描いていることが判明しました。秋の行楽の画題として「松茸狩」の絵が大阪の人々に親しまれ、受け継がれていったことがうかがえます。

あんじゅ Vol.100 2024年秋号 2024年10月1日発行 あんじゅは、春・夏・秋・冬に発行します。次号は2025年1月1日発行です。
■発行・編集 大阪市立住まい情報センター指定管理者 大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体（☎06-6242-1160 〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20）
■制作協力 （株）バード・デザインハウス